F1-3

「地域コミュニティ」の醸成に関する研究　その２
町会の実態把握調査から
A Study on the Breeding of “Local Community”
The Realities Grasp Investigation of Town Block Associations

○宇於﨑勝也[1]，藺草圭祐[2]，伊藤彦太[2]，澤頭俊平[2]，田中陽平[2]
Katsuya Uozaki[1],Keisuke Igusa[2],Genta Ito[2],Shunpei Sawagashira[2],Yohei Tanaka[2]

Abstract: This study understands the realities in Chiyoda Ward. I think to town block association is “Local community”. Chiyoda Ward is an extremely special and few resident, but it has a long history.

１．はじめに

人びとの生活のなかで「地域コミュニティ」は重要なものとされており，特に震災以降，互助，共助のためにも住民同士がコミュニケーションをとり，コミュニティを形成することが必要であるとされている．しかし，何が「地域コミュニティ」なのかは明確でなく，その醸成のために何をすればよいのかも不明な部分が多い．そこで本稿では「地域コミュニティ」のひとつの現われと考えられる町会に着目し，住民が少なく，きわめて特殊とも言える一方，長い歴史を持つ千代田区の町会の実態把握を行う．

２．研究の目的と方法

千代田区には 109 町会が存在する．町会は８つの連合町会に区分され，情報伝達の仕組みが形作られている．８連合町会長と２つの婦人会の代表の計 10 名に聞き取りを行い，町会での活動や生活の概要を伺うことで，都心居住と町会活動の実態を明らかにする．

３．ヒアリング概要

聞き取り調査は平成 25 年８月６日から９月 11 日の間に，７日間で実施した．実施場所は連合町会を所管する千代田区出張所内の区民会館を使用した．時間はおおよそ１時間 30 分を目安としたが，会話の拡がりに応じて１時間から２時間まで多少の違いがあった．方法は同一の質問票を手渡し，おおよそ質問票の項目に沿って，こちらから質問を投げかけ，返答をいただく形式とした．開始前に録音・撮影の許可をいただき，録音の全文をテープ起しをして，分析資料とした．なお，すべての聞き取りに対して千代田区コミュニティ振興課の職員が立ち会っている．

４．町会に関して

千代田区がまとめた資料[注1)]によれば，町会の加入率は区全体で 56.9%となっている．しかし，今回の聞き取りからは「町会のまとまりはよい」「企業も含めて町会員となっている」「マンション居住者も町会員となっている」など，非常にまとまりのよい町会像が浮かび上がった．回覧板なども回し連絡を図っているケースも多いが，各戸配布が徐々に増えている様子も見られた．町会費は永年の居住者と新居住者で若干差を付けているところもあるが，企業も含めて同額というところもあり，居住者も含めて全員が振込によるところもある一方，専属の集金人を雇用している町会も見られるなど，地域の状況にあわせた経験上得策とされるやり方がとられている．

地域での夏祭りは町会が主催する場合と，別組織による実施の２タイプがあるが，別組織の場合も役員が同じ人物であったりすることもあり，全く別実施とはなっていない．また，町会活動と宗教活動といえる「祭り」を全く切り離しているケースもある．概して神田エリアは神田明神の大祭に熱意，人，金をかけて盛り上がり，麹町エリアは地場の神社を祭る傾向にあるように見える．

５．マンション立地とマンション居住者

町会内にマンションが立地するにあたり，事業者は町会や自治会に事前説明を行うことが一般的である．町会長は工事中の安全や騒音等の対策について注意を申し入れるとともに，竣工後に入居者には町会に加入してもらう約束を取り付けることもあるという．事業者は工事の妨げにならないよう，これらの条件を了解することが多いことが明らかとなった．完成後，戸数

１：日大理工・教員・建築　２：日大理工・学部・建築

や規模に応じて，約束した町会費はマンション単位で一括して支払われる．この結果，町会側はマンション居住者を町会に受入れたことになり，町会活動への参加を期待する．しかし，ここには２点の問題がある．ひとつは，個々のマンション居住者が果たして町会費が集金され支払われていること理解しているのか．一括して支払われる町会費は管理会社を経由して入金される．つまり，事業者や販売会社は入居者に町会入会の説明をして町会費を徴収することの了解を得ているかが不明である．また，ふたつ目として，マンションへの回覧板は主として管理会社への回覧（行事案内）の手渡しで行われるのみであり，マンション内でその掲示が行われているかが不明である．この結果，マンション居住者は自身が町会員であること，町会の行事としてどのようなことが行われているかを知らない可能性がある．

実際にマンション居住者の町会活動への参加は芳しいものではない．マンション居住者への聞き取りは行っておらず，裏付けは取れていないが，祭りなどを見ると，子供がいる世帯では町会行事への参加が見られる．そのとき，親同士はＰＴＡ活動でのつながりもあるため，子供が小学生の時には人的ネットワークと町会行事への参加がある．しかし，千代田区の居住者は未婚若年単独世帯が東京都全体に比べ，相対的に高いことが確認されており[注2)]，子供がいない世帯が多いのではないかと推察される．そのため，町会行事に参加する機会を得ず，結果的に町会への関心がないマンション居住者が多数となっているのではないかと考えられる．

６．ひとりの居住者として

町会長に率直に千代田区が住みよい所なのかを訊ねると，一様に「住みよい」との返答が得られた．その理由はまず交通利便性の高さがあげられた．また，夜間が静かであるという点もあげられた．高度経済成長期以降，千代田区では人口減少に伴って，日用品の小売店が減少し，いわゆる生鮮３品を購入する場所が失われていった．この頃，それらをどのように求めていたかの質問では，日本橋や上野の百貨店での購入，移動販売車による購入，週末に外出先でまとめ買いといった状況であったという．その後，昼間人口をあてにしたコンビニエンスストアが立地するようになると，日用品購入の苦労が減り，ネットスーパーの普及でさらに困らなくなった．また，近年は居住人口の回復とともに需要が高まったことを受けて，大型マンションの立地に際して足元にスーパーマーケットを立地させることが増え，また，既存のビルの空き店舗に小型のスーパーマーケットが入居することが多くなったようである．現状では生鮮３品の購入に困ることがなくなっており，人口回復とスーパーマーケットの立地は密接な関係を持っているといえよう．

７．まとめ

地域コミュニティのひとつである，町会の活動に着目し，聞き取り調査を行い，町会活動の実態を探った．比較的良好な状況にある町会ばかりであったのかもしれないが，町会の活動は毎年の“恒例の行事”を中心に実施され，活動を主体的に実施する町会幹部の高齢化や少ない予算のやり繰りなどの苦労はあるものの，活動を通じて和気藹々となされていることがわかった．この結果いえることは，地域コミュニティとは「日々の人間の交わり」であり「顔の見える付き合い」ということが判明した．毎日挨拶を交わす人間関係が町会のまとまりであり，今回の調査結果としての地域コミュニティである．その中で，大きな課題としてマンション居住者の顔が見えないことが，人間関係を生まず，地域コミュニティとなっていない実態が浮かび上がった．千代田区の居住者は約９割がマンション居住者と推定され[注3)]，その大多数が地域コミュニティに参加をしていない特殊な地域であることも明らかとなった．

８．謝辞

本研究の一部は平成 25 年度「千代田学」:「都心居住の実態調査と都心型地域コミュニティの検討－千代田区居住者からの聞き取り－」により実施された．

９．注釈

1) 千代田区：「地域コミュニティ活性化検討委員会」資料，2013.7
2) 平成 22 年度国勢調査人口等基本集計の分析にもとづく
3) 平成 20 年度住宅・土地統計調査によれば，千代田区では「専用住宅」のうち，「共同住宅」の居住者が９割を越える（19,740 戸／20,600 戸）

10. 参考文献

1) 千代田区：「地域コミュニティ活性化検討委員会」第１回（2013.7.19），第２回（2013.8.1）資料
2) 中田実ほか:「町会のすべてが解る！疑問･難問 100 問 100 答」，じゃこめてい出版，2008.11